

奈良学園大学保健医療学部作業療法学専攻

評価・治療チェックリスト

(クリニカル・クラークシップ CCS チェックリスト)

— 老年期領域 —

Ver. 1.0

臨床実習施設： _____

臨床教育者（CE）氏名： _____

実習種別： 作業療法評価実習 ・ 総合臨床実習 I ・ 総合臨床実習 II

実習期間： 年 月 日～ 年 月 日

学生氏名： _____

評価・治療（クリニカル・クラークシップ [CCS]）チェックリストには、実際の作業療法を学ぶための、知識・技能・態度（課題）単位が示されています。どこまで経験しているか、何を経験するべきかを学生と臨床教育者（clinical educator：CE）とが共有するために用います。次頁以降の項目は養成校として学生に経験してほしいことを列挙してあります。作業療法士として必要なスキルすべてを網羅できているわけではありません。追加が必要とされる具体的事項は空欄に加筆の上、ご活用をお願いいたします。

【クリニカル・クラークシップチェックリストの記入方法】

このチェックリストは、CE が見学と解説、或いは模倣の機会を学生に提供し、それを学生がどう理解したか CE に報告させて、学生がその意味を考えたり、疑問を持ったり、質問するために記入します。

その日の終わりに学生と CE が一緒に記入するか、学生が記入したものを CE が確認して、CE によるコメントや両者でのディスカッションを通じて、学生が理解を深めていきます。学生が自ら疑問を持ち、課題を見つけられるように本チェックリストをご活用ください。可能な限り、毎日ご確認ください。

クリニカル・クラークシップ方式で行う実習には、以下の3つの学習プロセスがあります。

- ・見学： 学生は CE から現在対象者に行われている作業療法の内容や目的などについて説明を受けながら臨床行為などを見学します。実際の臨床場面以外でも（例えば、カルテから情報収集など）、どのように行うのか解説を受けてやり方を学びます。
- ・模倣： 【前期】見学（解説）の経験をもとに、CE の手本を真似する仕方について、その場での指導を受けながら実際に取り組みます。実施上のポイントを押さえさせるようにご配慮ください。CE による方法とどこが違うのかを話し合って理解させてください。
【後期】学生の実演に対して、できているところは認めて強化し、不足している視点や配慮を指摘して上達を促してください。必要だけの援助をし、徐々に手を引いていきます。
※前期と後期を明確に分ける必要はありません。目安として解説をご確認ください。
- ・実施： 学生が十分に模倣を重ねたうえで、CE の見守りのもとであれば、一般的な症例に対するその（見守り）技能や評価のリスクを概ね把握したうえで行えるというレベルです。模倣の延長線上であり、CE の指導管理から独立して行うということではありません。

【クリニカル・クラークシップチェックリストの記入例】

チェック項目	見学 (解説) レ点記入	模倣 正の字 記入	実施 (見守り) 至った 日付
作業療法や作業療法士の役割について対象者(または家族)に説明する	☒ ☐		/
作業療法士の役割についてスタッフ(OT や他職種)または対象者に説明する	☒ ☐		/
組織の概要を述べる(OTS は CE や他のスタッフ訪問時の養成校教員に対して行う)	☒ ☒	正 T	/

記入例を以下に示します。

『見学（解説）』にレ点を記入：

チェック項目にある臨床場面を見学させ、実際のやり方のポイントや、対象者のどんな反応に注意しているのかを説明した場合に☒をする。その場合 CE と学生の間で実演したり学生の技能を確認することが望まれます。2 回程度の見学を経て模倣の段階に進むことが望ましいですが、この限りではありません。

『模倣』：正の字を記入：

【前期】では、学生に CE の臨床場面を見た直後に同様の行為（動作・作業など）を学生に行わせます。

【後期】では、学生がより上達できるように指導をお願いします。

『実施（見守り）』：見守りレベルになった日を記入：

学生が模倣の段階において経験を十分に重ねた後、CE の見守りのうえで、一般的な臨床技能（評価・治療）を経験させてください。学生には実施の報告を CE にさせ適宜フィードバックをお願いします。

※必ずしも全ての項目で『実施』に至る必要はありません。また、学生として行うべきでない臨床実践や不要な項目は CE の判断で制限をかけてください(例えば対象者や家族に疾患について説明するなど)。

— 老年期領域 —

Ver. 1.0

以下の項目は実習で学生(OTS)に経験してほしいことを列挙しました。作業療法士として必要なスキルを全て網羅できているわけではありません。臨床教育者(CE)が追加が必要と判断された場合、具体的事項を空欄に加筆の上、ご活用願います。

領域	チェック項目	説明を受けたらチェック
オリエンテーション	部門の概要や位置づけについて説明を受ける	☐
	部門のリスク管理の方法、事故発生・発見時の対応について説明を受ける	☐
	関連部門について説明を受ける	☐
	部門で取り組んでいるチームアプローチについて説明を受ける	☐
	ハラスメントの予防と相談先について説明を受ける	☐
		☐

領域	チェック項目	見学 (解説) レ点を記	模倣 正の字を 記入	実施 (見守り) 至った日
作業療法士としての基礎	知識	作業療法や作業療法士の役割について対象者(または家族)に説明する	☐ ☐	/
		作業療法士の役割についてスタッフ(OTや他職種)または対象者に説明する	☐ ☐	/
		組織の概要を述べる(OTSはCEや他のスタッフ訪問時の養成校教員に対して行う)	☐ ☐	/
			☐ ☐	/
	態度	接遇やマナーを守り、自ら挨拶など積極的に行う	☐ ☐	/
		対象者や家族と良好な関係を築く	☐ ☐	/
		スタッフと良好な関係を築く	☐ ☐	/
		対象者や家族の話を傾聴する	☐ ☐	/
		疑問点を自ら見つけ、解決しようと努力する	☐ ☐	/
		自己学習を行うべき内容を考え、実践して知識を補う	☐ ☐	/
		作業療法室の日常業務に携わる行動をとる	☐ ☐	/
		CEに積極的に報告・連絡・相談を行う	☐ ☐	/
	技能		☐ ☐	/
		管理・運営の流れに従って行動する	☐ ☐	/
		必要な事項を記録する	☐ ☐	/
		申し送りやカンファレンスに参加する	☐ ☐	/
		作業療法室の物品の整理整頓、管理を行う	☐ ☐	/
			☐ ☐	/
作業療法評価・治療	情報収集 技能	カルテ、サマリーから現病歴、既往歴、内服など必要な情報を得る	☐ ☐	/
		画像所見、血液検査等の検査情報を得る	☐ ☐	/
		ケアプランから必要な情報を得る	☐ ☐	/
		他職種からの情報収集ができる	☐ ☐	/
		・医師	☐ ☐	/
		・ケアマネージャー	☐ ☐	/
		☐ 看護師 ☐ 理学療法士 ☐ 言語聴覚士 ☐ 介護士 ☐ 医療ソーシャルワーカー	☐ ☐	/
		・その他の部門()	☐ ☐	/
作業療法評価・治療	知識	対象者・家族から必要な情報を収集する(問診)	☐ ☐	/
			☐ ☐	/
		疾患によるリスクを理解する	☐ ☐	/
		疾患や症状に合わせた検査・測定項目を列挙し説明する	☐ ☐	/
	リスク管理 技能	作業療法中止基準について対象者に説明する	☐ ☐	/
			☐ ☐	/
		血圧、脈拍、呼吸数を測定する	☐ ☐	/
		酸素飽和度を測定する	☐ ☐	/
		顔色・冷や汗・自覚症状等に注意する	☐ ☐	/
		転倒・転落がないよう行動する	☐ ☐	/
		病院・施設のルール(転倒・感染防止他)に従って行動する	☐ ☐	/
		言語・非言語問わず、対象者の苦痛や不快な表情、態度に注意する	☐ ☐	/
			☐ ☐	/

領域			チェック項目	見学 (解説) し点を記	模倣 正の字を 記入	実施 (見守り) 至った日
作業療法評価・治療	個人 因子	技能	ニーズを把握する(COPM、OSAなど)	☐ ☐		/
			性格傾向を把握する	☐ ☐		/
			趣味・興味・関心を把握する(興味・関心チェックリストなど)	☐ ☐		/
			役割を把握する(役割チェックリストなど)	☐ ☐		/
			生活歴・作業歴を把握する	☐ ☐		/
				☐ ☐		/
	環境 因子	技能	家族構成、介護力、介護負担感を評価する	☐ ☐		/
			その他の家庭環境を評価する	☐ ☐		/
			家屋環境の評価を行う	☐ ☐		/
			家庭の経済状況について情報を得る	☐ ☐		/
			居住地域や地域のケアシステムの評価を行う	☐ ☐		/
			環境因子について問題抽出をする	☐ ☐		/
			調整が必要な環境(物理的・人的・制度的)や福祉用具・自助具を列挙し説明する	☐ ☐		/
				☐ ☐		/
	活動と参加	A D L	日常生活活動(ADL)とは何かを説明する	☐ ☐		/
			対象者の1日の生活の流れを把握する	☐ ☐		/
			ADLの評価を行う(BI、FIM 他)	☐ ☐		/
			起居動作を評価し行う(寝返り、起き上がり、立ち上がり、立位)	☐ ☐		/
			移乗動作を評価し行う(トランスファー)	☐ ☐		/
			移動動作を評価する(杖、車いす操作、歩行、階段昇降)	☐ ☐		/
			排泄動作を評価する(トイレ移乗、下衣上げ下げ、後始末)	☐ ☐		/
			食事動作を評価する(用具・食器操作、食べ物口へ運ぶ)	☐ ☐		/
			更衣動作を評価する(前開き、かぶり、ズボン、靴下、靴)	☐ ☐		/
			整容動作を評価する(洗顔、ブラシ、歯磨き、髭剃り、化粧)	☐ ☐		/
			入浴動作を評価する(浴室・浴槽の出入り、洗体、洗髪、清拭)	☐ ☐		/
				☐ ☐		/
		I A D L	生活関連動作(IADL)とは何かを説明する	☐ ☐		/
			調理活動の評価を行う(調理器具操作、食器準備片づけ、煮炊き、火の使用、食器洗い)	☐ ☐		/
			洗濯活動の評価を行う(洗濯機操作、洗濯物干し取り込み片づけ)	☐ ☐		/
			掃除活動の評価を行う(掃除機操作、拭き掃除、ゴミ出し)	☐ ☐		/
			金銭管理能力の評価を行う(お金の計算、金銭出し入れ、家計管理)	☐ ☐		/
			屋外の活動の評価を行う	☐ ☐		/
			公共交通の利用の評価を行う	☐ ☐		/
				☐ ☐		/

領域		チェック項目	見学 (解説) レ点を記	模倣 正の字を 記入	実施 (見守り) 至った日
作業療法評価・治療	活動と参加 その他	参加と活動について問題を抽出する	☐ ☐		/
		社会保障(医療保険、介護保険など)について説明する	☐ ☐		/
		コミュニケーション能力の評価を行う	☐ ☐		/
		職業前評価を行う(職歴、職場復帰、再就労の可否を踏まえて)	☐ ☐		/
		QOLの評価を行う(価値観、現在最も重視している事項、楽しみ喜び)	☐ ☐		/
		仕事・趣味・余暇活動の評価を行う	☐ ☐		/
			☐ ☐		/
	知識	作業療法における評価の意味を説明する	☐ ☐		/
		良肢位保持の意味を説明する	☐ ☐		/
		拘縮について説明する	☐ ☐		/
		介護度について説明する	☐ ☐		/
		認知症(中核症状・行動心理症状)について説明する	☐ ☐		/
		廃用性症候群について説明する	☐ ☐		/
			☐ ☐		/
	心身機能・身体構造 基本的な介入技術	意識レベルを評価する(JCS・GCS)	☐ ☐		/
		関節可動域の評価を行う(肩関節)	☐ ☐		/
		関節可動域の評価を行う(肘関節・前腕)	☐ ☐		/
		関節可動域の評価を行う(手関節)	☐ ☐		/
		関節可動域の評価を行う(手指)	☐ ☐		/
		関節可動域の評価を行う(股関節)	☐ ☐		/
		関節可動域の評価を行う(膝関節)	☐ ☐		/
		関節可動域の評価を行う(足関節)	☐ ☐		/
		筋力の評価を行う(上肢・MMT)	☐ ☐		/
		筋力の評価を行う(下肢・MMT)	☐ ☐		/
		筋力の評価を行う(握力・ピンチ力)	☐ ☐		/
		形態測定を行う(上肢長・下肢長・周径他)	☐ ☐		/
		知覚の評価を行う(触覚、圧覚、痛覚、運動覚、位置覚)	☐ ☐		/
		反射検査を行う(深部腱反射・病的反射)	☐ ☐		/
		筋緊張検査を行う(MAS・視診・触診・他動運動)	☐ ☐		/
		協調性の評価を行う	☐ ☐		/
		バランスの評価を行う(座位・立位)	☐ ☐		/
		上肢機能の評価を行う(STEF ほか)	☐ ☐		/
		手指機能の評価を行う	☐ ☐		/
		浮腫・熱感・疼痛の評価を行う	☐ ☐		/
		画像診断を見て情報を得る(レントゲン、CT、MRI 他)	☐ ☐		/
		心理面の評価を行う(感情、意欲を含む)	☐ ☐		/
		知的能力の評価を行う	☐ ☐		/
		心身機能・身体構造について問題抽出をする	☐ ☐		/
		姿勢の評価を行う	☐ ☐		/
		障害老人日常生活自立度を使用して評価を行う	☐ ☐		/
			☐ ☐		

領域		チェック項目	見学 (解説) し点を記	模倣 正の字を 記入	実施 (見守り) 至った日
作業療法評価・治療	心身機能・身体構造	運動麻痺の評価を行う(BRS、上田の12段階評価、SIAS、FMA 他)	☐ ☐		/
		脊髄損傷の重症度を評価する(ASIA他)	☐ ☐		/
		脳卒中上肢機能評価を行う(MFT、MAL他)	☐ ☐		/
		高次脳機能の評価を行う(半側空間無視)	☐ ☐		/
		高次脳機能の評価を行う(失認)	☐ ☐		/
		高次脳機能の評価を行う(遂行機能障害)	☐ ☐		/
		高次脳機能の評価を行う(注意・意識)	☐ ☐		/
		高次脳機能の評価を行う(記憶)	☐ ☐		/
			☐ ☐		/
		関節リウマチの重症度の評価を行う(スタインブロッカー他)	☐ ☐		/
		大腿骨近位部骨折、腰椎圧迫骨折等の画像評価を行う	☐ ☐		/
		骨折後の感染・脱臼等のリスク評価を行う	☐ ☐		/
		疼痛評価を行う(VAS 他)	☐ ☐		/
			☐ ☐		/
		心疾患の重症度の評価を行う(NYHA 他)	☐ ☐		/
		腎疾患の重症度の評価を行う	☐ ☐		/
		呼吸器疾患の重症度の評価を行う(ヒュー・ジョーンズ分類他)	☐ ☐		/
		代謝障害の重症度の評価を行う	☐ ☐		/
			☐ ☐		/
		HDS-R、MMSE、COGNISTATを使用して評価を行う	☐ ☐		/
		MoCA、FABを使用して評価を行う	☐ ☐		/
		認知症高齢者判定基準(CDR、FAST等)を使用して評価を行う	☐ ☐		/
		行動心理症状の評価(DBD、NPI等)を行う	☐ ☐		/
			☐ ☐		/
		パーキンソン病の重症度、4大徴候の評価を行う(ヤールの分類等)	☐ ☐		/
		悪性腫瘍の重症度の評価を行う	☐ ☐		/
		集団プログラムの参加について評価を行う	☐ ☐		/
		他者との関係について評価を行う	☐ ☐		/
			☐ ☐		/
作業療法評価・治療	評価の解釈 技能	ICFを用いて障害像の統合と解釈を行う	☐ ☐		/
		模擬カルテを記載する	☐ ☐		/
		対象者の状態変化に応じたプログラム・介入方針の変更を行う	☐ ☐		/
		長期目標を立てる	☐ ☐		/
		短期目標を立てる	☐ ☐		/
		目標の優先順位づけをする	☐ ☐		/
		OT介入に関する報告を行う	☐ ☐		/
			☐ ☐		/